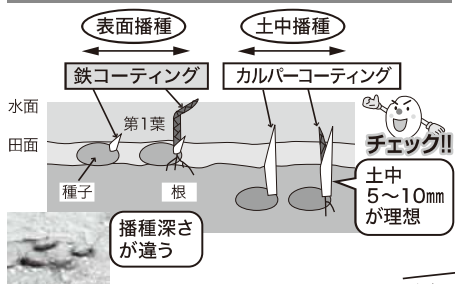


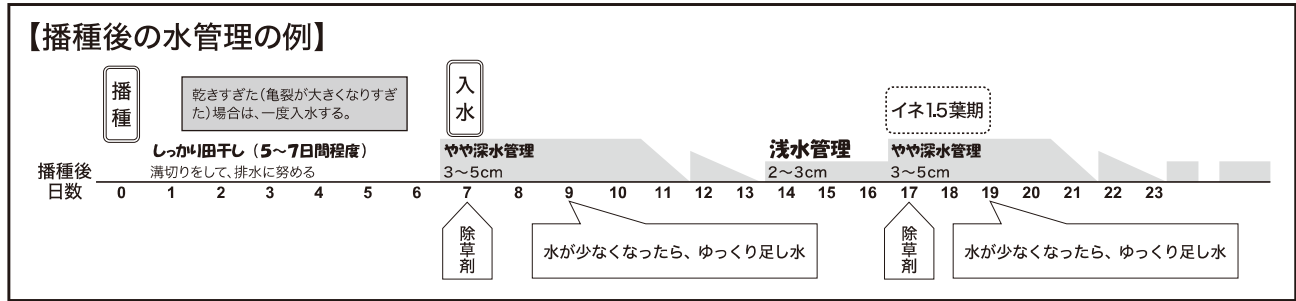
直播コシヒカリ(カルパーコーティング) の栽培ごよみ (JA米生産基準)

収量構成の目安	
収 量 構 成	目 安
m 当 たり 苗 立 数 (㎡当たり苗立数) (本)	21 (40～80)
m 当 たり 穂 数 (㎡当たり穂数) (本)	120 (390)
平 均 1 穂 粒 数(粒)	70
㎡ 当 たり 粒 数(百粒)	273
登 熟 歩 合 (%)	85
玄 米 千 粒 重 (g)	22.0
10 a 当 たり 収 量 (kg)	510

鉄コーティングとカルパーの播種深さ

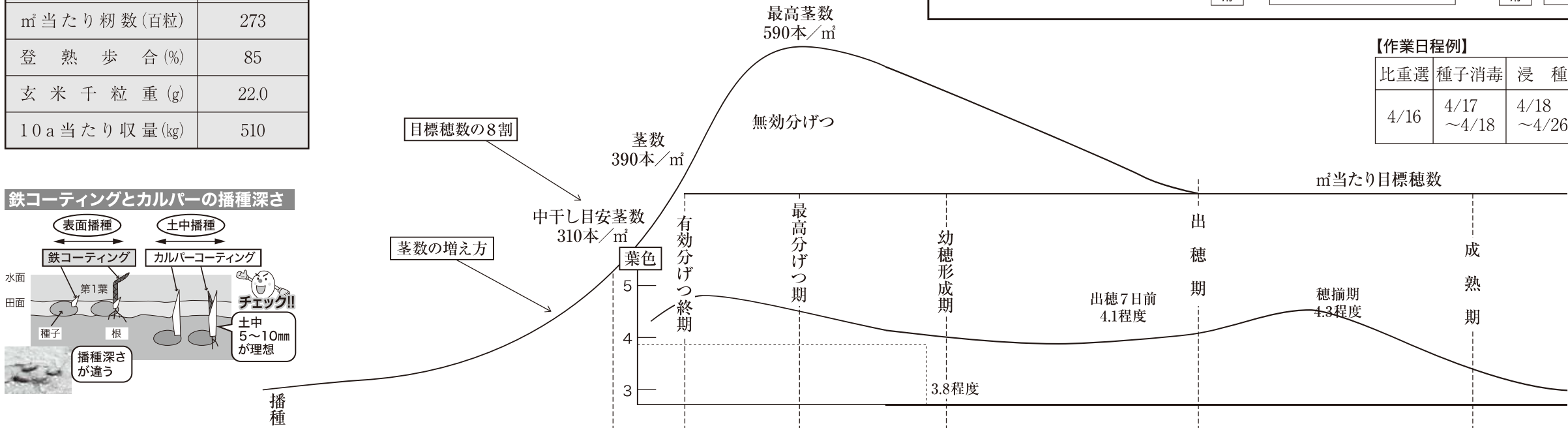


- 栽培のポイント
- ①代かきはねりすぎない
 - ②播種量の遵守：条播2.7kg/10a 点播3.0kg/10a(乾粒重量)
 - ③播種後の田干し
 - ④確実な中干しで適切な茎数に誘導する
 - ⑤出穂後20日間の湛水管理の徹底



【作業日程例】

比重選	種子消毒	浸 種	催 芽	コーティング	播 種
4/16	4/17 ～4/18	4/18 ～4/26	4/26 ～4/27	4/29	5/1



月 日	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10月							
	5/1		6/11		6/27		7/13		8/4		9/14									
生育期区分	(ほ場および種子の準備)		播 種 期	出 芽 期	有効分げつ期		無効分げつ期		稲体組織 充実期		幼穂形成期		穂ばらみ期		登 熟 期		収穫期		土づくり	
水 管 理			深水管理		浅水管理		溝切り、中干し		間断かん水				飽水管理		湛水管理		間断かん水			
栽 培 管 理 の ポ イ ン ト	ほ場および種子の準備 ○雑草が多かったほ場では、刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。 ○稲わらの腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ○シリカロマンは10 a 当たり100 kg 以上施用する。 ○土壌診断に基づく土づくりの実施。 遅れないようにする。 ○刈取適期表示を目安に刈取を行い、胴割れが発生しやすいので刈 稲の黄化率85～90％程度が刈取時期 落水を急がない フーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。 ※ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。 ○刈取予定日の5～7日前までは間断かん水を行う。 の湛水管理を徹底する。 ○胴割米の発生防止とカドミウムの吸収抑制のため、出穂から20日間 稲体の活力維持 基本防除を徹底する。 病害虫防除の徹底 穂揃期は4.3程度の葉色を目標とする。 ○出穂7日前の葉色が4.0以下の場合には直ちに追肥を7 kg／10 a 施用する。 適切な葉色に誘導する ○幼穂形成期以降は飽水管理を行う。 ○幼穂形成期の葉色は3.8程度に誘導する。 ○畦畔・農道の草刈りを徹底する。 ○F/S 剤を使用していない場合は、6月20日頃までにオリブライト いもち病・紋枯病防除の徹底 ○中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。 ○茎数が少ないほ場では中干しを遅らせる。 ○溝の手直しを行う。 ○中干しは、溝切り後直ちに開始する。 適正な中干しの徹底 ○2～3葉期以降は軽い田干しや水の入れ替えを行い、根の健全化を図る。 初期生育・良質茎の確保 ○播種後の田干し期間に、スズメ等の侵入がある場合は直ちに入水する。 ○播種後は溝切りを行い、土壌表面に亀裂が入る程度の田干しを行う。 ○播種深度は1 cm 程度で確実に土中へ播種する。 ○荒天時の播種は避ける。 合は、当日の早朝に落水する。 ○播種作業が午前中の場合は、前日の夕方に落水し、午後の播種の場 播種量は乾燥籾で条播は10 a 当たり2.7 kg 点播は3.0 kg とする。 安定した苗立ちの確保 ○F/S 剤を使用する場合は使用量を遵守する。 ようにする。 ○カルパーコーティング前の種籾は手に付かない程度で、乾かしすぎない ○催芽は「ハト胸程度」1 mm 程度とする。 ○浸種は催芽ムラとならないように上下均一な温度の確保に努める。 ○種子は全量更新をし、比重選を行って優良種子を確保する。 ○播種前に除草剤は使用しない。 ○代かきは、ねりすぎずに、播種前2～3日に行い均平化に努める。 ○ほ場内の高低差を直しておく。																			